

私は翼の父親です

私の息子翼はとても優しい心を持った息子でした。私たち家族はいまだに翼が亡くなったことを受け止めきれずにいます
事故当日今日は仕事は休みなんだろうと思っていたのですが午後6時すぎにこれから仕事に行くと言ってバイクで出ていきました
その後30分足らずで事故にあってしまいました
何も知らずに私はリビングで映画観賞、妻は遅く帰ってくる息子のために夕食の仕度をしていました 午後9時20分ごろ横須賀警察署から携帯に連絡がありました
今日6時40分頃重大な交通事故があり亡くなっている方が翼さんの免許証を持っていました 翼さんはご自宅ですかと言われ夕方から仕事に行きましたと言うと横須賀警察署まで確認に来て下さいと言われました 家族で慌てて警察署に行き奥の暗な安置室でビニール袋に入れられた翼に会いました 余り見ない方がいいと文面にしてすぐ隠されてしまいました
事故の詳細は右折禁止の交差点を右折してまた米海軍の車と衝突しました 日米地位協定により今はまだ詳細は何も教えられませんと言われました 明日検死をするので今日は返せません葬儀会社手配して下さい
何が何んだか分からないまま事務手続きだけで帰されました
なぜ病院ではなく警察署での文面だったのか せめて病院に駆けつけ翼に頑張れ、頑張れ 逝くんじやない度ってこい親より先に逝くな、と家族で声をかけたかった 祈りたかった 素直で家族鬼いの翼なら命を失わず戻って来たかと思ってしまう
検死の後 息子を家に帰らせたい 数日家族で一緒に過ごしたいと思い葬儀屋に家に連れて来て下さいと頼みました
息子が家に戻る少し前から遠くで雷が鳴りはじめていました ちょうど家に到着する数秒前に家の真上で雷が鳴り響き その音で地響きも感じました その直後に葬儀屋が翼を連れて家に帰って またので翼の怒りのようだと感じました
娘は優しい兄が亡くなってしまったこと受け止めきれずにいる様で仏壇の前にはいまだに座れません。言葉には表せないほど 悲しく辛い気持ちなんだと思います 今まではリビングでよく過ごしていたのに今は食事の時だけしかリビングにこなくなりました。

家の中が暗くなってしまい辛いです
ヤノス被告には翼を返せ！返してくれという思いです

2日間家で家族と過ごして葬儀場に連れていかれる息子の
目頭には三度か いっぱいたまっていました
私は骨折の怪我をしていたため息子が家に帰って来た時
葬儀場に戻る時も牛を貸せず切ない思いでした

米海軍指令部の方から ヤノス被告を葬儀に参列させて下さいと
言われました 私はそんなの迷惑だ"と思っていたが
妻が本当に謝りたい気持ちがあるのなら参列させて翼に
直接謝らせたいと言うので参列させました
葬儀での被告は 私にはソレソと軽く頭を下げるだけ
妻、娘には言葉なく 息子の祭壇前に平然と立ち最後まで
三度心とつ見せなかった 何も被告からは謝罪の思いが
伝わってこなかった

被告側の証拠説明書を見せてもらいましたが
告別式に被告人、米海軍上官関係者6人で参列した事
被告人から20万部隊から10万供花 1万6500円を出して謝罪でマている
執行猶予刑になったとしたら速やかに帰国させる
賠償金は3000万の保険加入から それ以上は地位協定第18条で
済ませるという内容でした
香典や供花は受け付けに扱われていたので後で知る事になりました
今でも手つかずにおいたままです

ヤノス被告は香典も出し葬儀にも参列したから充分謝罪は
マてている 後は米国に帰国し公務外だったから米海軍も
関与せずに終わらせてしまう 何も遺族に寄り添う気持ちなど
ないのだ"と思います

最後の翼とのお別れ 告別式に参列させてしまった事
今は後悔に変わりました

息子翼は22歳で長い人生の1/4ほどしか生きていない
社会人になり夢、希望、経験、計画していた事が沢山あったと思う
息子翼にこの先辛い経験困難もあったと思う それを乗り越えもっと
幸せな楽しい経験 年を重ねながらの人生を送れたはずなのに
考えてしまうと切なく涙が溢れてしまいます
翼の代わりに私が逝けば良かったのにと考えてしまいます

事故のドライブレコーダー映像見るとヤノス被告が右折する前に
前方から直ぐ近くまで走って来る息子のバイクが視野に入っているはず
そこへ故意に右に急いどルを切り息子のバイクの進路を塞ぎながら
激突させた危険な運転、父親の私には殺人としか見えません
ヤノス被告は衝突前にライトに気づいたと言っていると聞きました
その場で車を停止してくれれば事故は防げた息子は死なずに
済んだ なのにそのまま車を走らせ激突させた。息子の身体が
車に残っている状態で交差点の先まで車を走らせた 悔しい
米海軍からは同乗者に救命士がいて救護活動したと聞いていたが
車を降りて離れて息子を見て駆け寄り声をかけるでもなく何もなかった
通行人、女性医師、信用金庫の方達ちが息子に駆け寄り声をかけ
状態確認して救命活動を始めてくれました
後から同じ交差点、を右折して来た 外国人の方も一緒に救命活動に
加わってくれていた その方に言われたのか同乗の女性救命士も1回
伝っていた ヤノス被告は息子に駆け寄り声をかけることもなく
負傷者に文句ある救護をしていない

事故車は修理したと聞いています
ヤノス被告は事故前は車の運転は週1回ぐらい 事故後は
免許取り上げもなく 交際相手の車を週4回は運転していると
言っている この重大事故の反省などしていないと思う
事故は運が悪いかったぐらいの気持ちでいる
ヤノス被告は申し訳ありませんと言っているが 口頭では何人とも
言える 遺族はこんなにも苦しい思いをしているのに
被告人は過失運転致死罪で済んでしまう
危険運転致死罪には成らない悔しい思いです

ヤノス被告には悪質極まりない自分勝手無謀な運転で
運転には人一倍注意^し気遣いの出来る息子翼の命、人生を奪った
刑務所に入り一人己の底から罪の重さを深く感じさせ反省し
息子に人間的謝罪の気持ちを持たせたいです

重い実刑一人深く考えさせる時間を与えなければヤノス被告は
米国に帰り重大事故の事も忘れてしまう
被告人は刑務所に入っても出て来れば長い人生社会復帰は出来る
私たち家族は最愛な息子翼に会いたい、話したいと願っても
二度と会う事は叶わない、苦しく切ない思いをしています

ヤノス被告は本日の裁判で償い^の方法として 償い金と
お金の突然、話を交えました。

ヤノス被告は 米国に帰国した後、私たちにお金をどうやら
返金するのでしょうか

裁判官 私たちは ヤノス被告に執行猶予付けない
重い実刑罰を望みます。

伊藤正美